

新経営推進プランの第2年度（平成22・2010年度）における事業実績について

《第1》全体概況

新経営推進プラン（H21.2月策定。計画期間：H21～23）の第2年度となる平成22年度は、病院部門では7月から整形外科の医師1名が欠員となり、障害者支援施設では入所者の減小傾向など経営環境・経営条件が厳しい中でありましたが、概ね順調に業務運営を行うことができました。

四半期ごとの収入の対前年比を見ると、医業収入では第3四半期までプラス、施設収入では第3四半期からプラスとなり、年度合計では医業収入は前年比5.2%の増（前年度は0.2%の微減）、施設収入は0.6%の微減（前年度は5.4%の減）にとどまりました。

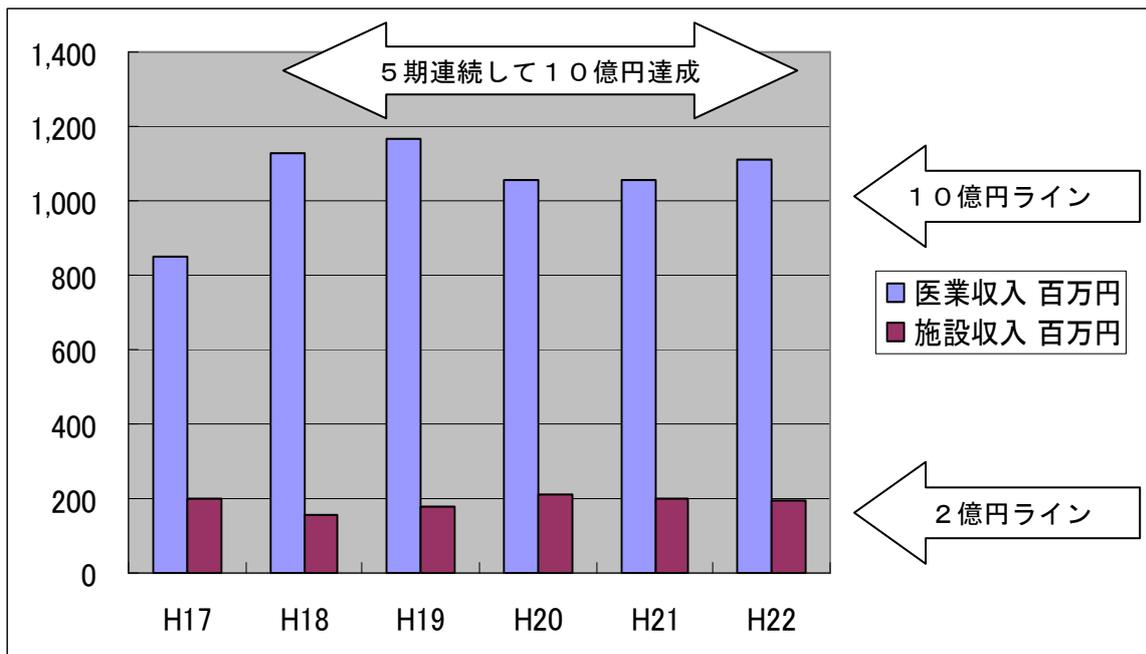
平成22年度四半期別の対前年同期比（収入ベース、単位：%）

区分	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	年度合計
医業収入	20.4	9.5	8.4	△13.9	5.2
施設収入	△3.9	△2.7	0.2	4.1	△0.6

その結果、医業収入は平成18年度から5期連続して10億円超となり、平成22年度は11億900万円と、投入した職員給与費の1.9倍を超える好成績を記録しました。一方、施設収入は僅かに2億円を下回り、約1億9600万円になりました。

これらにより、医業収入と施設収入を合計した使用料収入額は、約13億500万円となり、新経営推進プランの目標水準（使用料収入12億円以上）に到達しました。

最近6年間の医業収入及び施設収入の推移



以下、平成 22 年度の事業経営状況について、新経営推進プランの経営目標と対比させながら、お示しいたしますので、ご覧いただきたいと存じます。

《第 2》新経営推進プランにおける経営目標と平成 21 年度実績との対比について

新経営推進プランは、「公立病院改革プラン（総務省から全国の公立病院に対し平成 20 年度中に策定するよう指示されました。）」に相当するものとして、経営戦略計画を見直して策定したものです。

このプランにより、当センターとして達成可能な経営目標を県民の皆様に広く提示して行う経営、職員個々が夢や希望、あるいは明確な業務目標を持って取組む経営、更に福祉医療の質と経営の効率化・収益性との両輪によって県民の方々に心から喜ばれる経営を推進して行きます。

全体目標、部（室）課（科）別経営目標に対する平成 22 年度実績については、以下のとおりです。

1 全体目標

区 分	平成 22 年度実績	備 考
《目標 1》使用料収入額 12 億円以上の達成	約 13 億 500 万円を達成	総合リハビリテーションセンター使用料
《目標 2》リハビリテーション療法部の新設	平成 21 年 4 月に設置済み	目標： 平成 21～23 年度中に新設
《目標 3》職員給与費の 1.7 倍以上の医業収入の確保	《1.9 倍超》を達成	H22 医業収入： 約 11 億 900 万円 H22 職員給与費： 約 5 億 7800 万円

2 部（室）課（科）別経営目標

区 分		平成 19 年度 （基準）	平成 22 年度 （実績）	平成 23 年度 （目標値）
1. 更生相談	身体障害者手帳交付件数	8,904 件	9,038 件 [延べ 17,985 件]	27,500 件 (計画期間の合計)
	リハビリ・アウトリーチ事業	—	2 回実施 [延べ 3 回]	5 回実施 (計画期間の合計)

2. 障 害 者 支 援 施 設	入所者利用率	51%	65% (利用者52人)	81% (利用者65人)以上
	利用人員(利用可能数)	140人	80人 平成21年4月実施	80人 (平成21年度から実施)
	理学療法実施延べ人数	9,981人	8,195人	9,594人以上
	作業療法実施延べ人数	9,681人	6,996人	9,305人以上
	言語聴覚療法実施延べ人数	888人	915人	1,280人以上
	訓練者数	71人	52人	65人以上
	就職・復職者数	8人	6人 [延べ10人]	15人 (計画期間の合計)

3. 障 害 者 自 立 支 援 医 療 等	医師数 (非常勤医師を除く)	7人	(4月~6月)7人 (7月~3月)6人	7人
	看護師数(※)	54人	53人	54人
	外来患者数	17,249人	20,338人	18,000人
	手術件数	579件	420件	500件程度
	神経ブロック件数 〔22年度から外書〕		242件	
	入院患者数	845人	731人	800人程度
	病床利用率(1F・2F)	82.1%	77.8%	83%
	平均在院日数	27.4日	30.8日	29日以内
	ジェネリック薬品使用率	8%	10.3%	12%
	理学療法士・施術師数(※)	13人	14人	14人
	作業療法士数(※)	8人	8人	8人
	言語聴覚士数(※)	2人	3人	3人
	理学療法実施延べ人数	17,046人	19,606人	17,557人
	作業療法実施延べ人数	7,104人	10,114人	7,317人
言語聴覚療法実施延べ人数	2,780人	3,987人	4,253人	

4. 補 装 具	義肢装具士数(※)	3人	3人	3人
	義肢装具製作件数	281件	215件	195件
	義肢装具修理件数	281件	249件	330件
	補装具費支給判定	150件	290件	200件
	補装具適合判定	—	15件	10件

5. エ コ ロ ジ ー & エ コ ノ ミ ー	電気使用量の削減 (対平成16年度比)	2. 2%削減	5%増加	10%以上削減 (ただし、平成22年度 目標値)
	燃料(灯油、重油)使用量の 削減(対平成16年度比)	7. 2%削減	12. 5%削減	
	水道使用量の削減 (対平成16年度比)	4. 0%削減	10. 4%増加	
	用紙類の削減 (対平成16年度比)	14. 6%削減	9%削減	12%以上削減 (ただし、平成22年度 目標値)

(注) ※：毎年度の4月1日現在の人員

《第3》平成22年度における病院部門の経営収支について

平成21年7月に整形外科の常勤医師を確保し医師7名体制が整ったものの、22年6月末での退職により再び欠員が生じることになりました。こうした中、患者数の増加や診療報酬改定の影響などもあって、医業収入は対前年度比で約5500万円の増収になりました。一方、経費面においては、前年度より3500万円マイナスと大幅な経費節減となりました。

この経費節減は、職員給与費、医薬材料費及び一般経費の全てに渡り、職員給与費は、対前年度比で約400万円減少し、計画値を約1700万円下回りました。

また、医薬材料費については、手術件数や材料価格等により変動するところですが、計画値を2700万円程下回り、医業収入に占める医薬材料費の割合は、計画値(34.3%)に対し31.1%になりました。

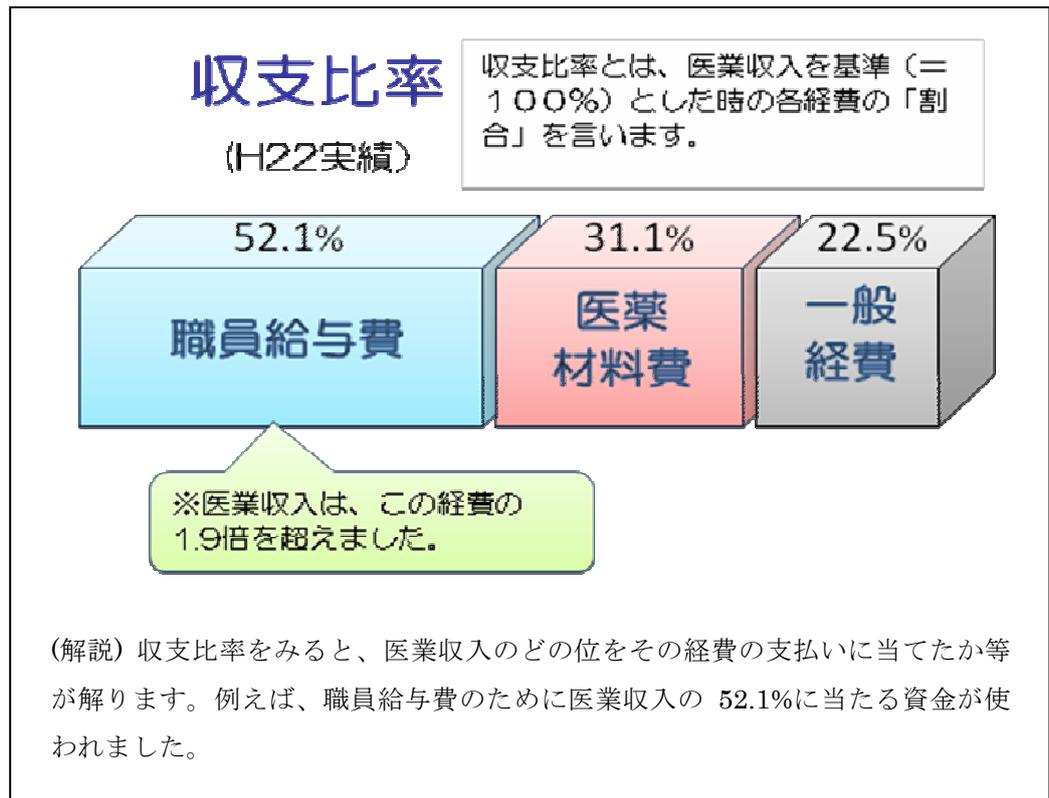
以上のとおり、平成22年度における医業収入は、計画値を約2500万円上回り、経費についても、計画値より約5900万円に及ぶ節減が図れたため、平成22年度の経費合計に占める医業収入の割合は、計画値を6.5ポイント上回り、94.5%となりました。

平成22年度の病院部門における収支実績表

(単位：百万円、収支比率：%)

区分	計画値(A)	収支比率	実績(B)	収支比率	増減(B-A)	
医業収入	1,084	100.0	1,109	100.0	25	
経 費	職員給与費	595	54.9	578	52.1	△17
	医薬材料費	372	34.3	345	31.1	△27
	一般経費	265	24.4	250	22.5	△15
	合計	1,232	113.7	1,173	105.8	△59
経費対医業収入割合	88.0%	—	94.5%	—	6.5%	

(注) 収支比率＝経費÷医業収入×100%



注1：「医業収入」とは、病院部門における使用料収入（調定額）をいいます。医師による各種の書類作成料などは除かれます。

注2：「職員給与費」とは、病院部門における医師、看護師等の医療系職員、栄養・事務職員などに支払われた給料及び諸手当（退職手当を除く）をいいます。

注3：「医薬材料費」とは、体内への埋没材料、医薬品、各種検査試薬など手術や治療に必要な資材購入に係る経費をいいます。オーダリングシステムに係る消耗品の購入代金は除かれます。